

トビイロウンカの発生に注意

トビイロウンカが県内各地の水稲ほ場で確認されています（図1）。

本種は、大陸から気流に乗って移動してくるイネ害虫で、もともとは熱帯地域に生息しており、本州では越冬できませんが、飛来後には短期間で急激に増殖するため、吸汁による被害を引き起こします。

全国的な発生予察情報の発表状況は、西日本を中心に9月10日時点において警報が10府県、注意報が13府県（警報との重複を除く）となっています。

本種は、出穂期以降に多発するとイネ株が急激に萎凋して枯れるため、「坪枯れ」と呼ばれる被害となります（図2）。現時点において県下で本種が原因と考えられる坪枯れは確認されておりませんが、10月以降に収穫を迎えるハツシモ等の晩生品種では、被害が発生する可能性があります。ほ場の見回りを徹底するとともに、特に水面近くのイネの株元を重点的に観察してください。

なお、防除を実施する際は、使用時期（収穫前日数）等の農薬使用基準を遵守して、薬液が株元にかかるように散布してください。



図1 粘着板で捕獲したトビイロウンカ成虫（長翅型）

図2 トビイロウンカによる坪枯れ被害（令和元年撮影、中津川市）

- 農薬の使用にあたっては、最新の登録内容を確認し、適正に使用してください。
農林水産消費安全技術センター
http://www.acis.famic.go.jp/index_kensaku.htm
- 当所のホームページに発生予察情報、病虫害調査データなどを掲載していますのでご活用ください。
岐阜県病虫害防除所
<http://www.pref.gifu.lg.jp/sangyo/nogyo/gifu-clean/24321/>